

今のあなたならやっつけていけますか

毎月一日と十五日には、交差点に交通安全協会の方が立ってくださいます。私が毎日立っているところにも、いつもの方が来てくださり、今日はその方と毎日立ってくださるI氏、そして私の三人で生徒たちの安全を見守りました。

三人そろろうと真つ先に飛び出す話題が、昨年度北中を卒業し、境川部屋に入った水野裕哉君のことです。デビュー以来これまで順調に勝ち越しており、水野ファンのお二人にとっては、それがまるで自分のことのようにうれしく思えるようです。

「中卒で五勝二敗はすごいね。大卒や高卒の者もいる中で、ようがんばつとるね!」

「相撲だけではなく、中卒で親元を離れて厳しい世界で生きていることもすごいなあ!」

まさしくそうです。私たち応援する側は、彼の活躍を表す数字や入ってくる情報だけで、彼を「すごい」「頑張っている」のひとことで評価してしまいます。しかし、彼のすごさや頑張りは、そんなことでは済まされないほどとてつもなく大きいものだと思えます。

十二月生まれの彼はまだ十五歳です。半分大人だとは言え、親や家族の支えがまだ必要な年ごろです。苦しい時、寂しい時に、自分のことをよく知っている人たちがそばにいてくれることが、いちばんうれしいはずです。世の中の十五歳はそういう年齢です。

我が子が心配でも、東京へ会いに行けません。名古屋場所なら会えるかと思いきや、コロナの関係でそれもかなわなかったようです。親や家族としては当然会いたいはず。本人は何も言わないでしょうが、親や家族、友達に会って短くても楽しいひと時を過ごしたい。そういうのが普通の十五歳ではないでしょうか。

彼だけでなく、卒業生の中には、遠くの高校に進学して簡単には帰省できない環境の中で頑張っている者がいます。親や家族が身近にいれば、上げ膳据え膳で食事ができますし、「車で送って」「迎えに来て」などと気軽に頼むこともできます。洗濯もやる必要ないし、自分だけの部屋でゆっくり休むこともできます。

親元を離れると、こういうことはできません。常に周りに気を遣わなければならぬでしょうし、プライベートなんてあつてないようなものです。

そんな状況に、あなたが今飛び込んだとしたらどうですか。今のあなたならやっつけていけそうですか。遅かれ早かれいつかはそういう状況があるたにもやっつけてくることでしょうから、今から心の準備だけはしておくと思えますよ。特に、三年の皆さん、これから進路を決めるにあたって、親や家族の存在を改めて考えてみましょうね。

(十月十五日 記)

